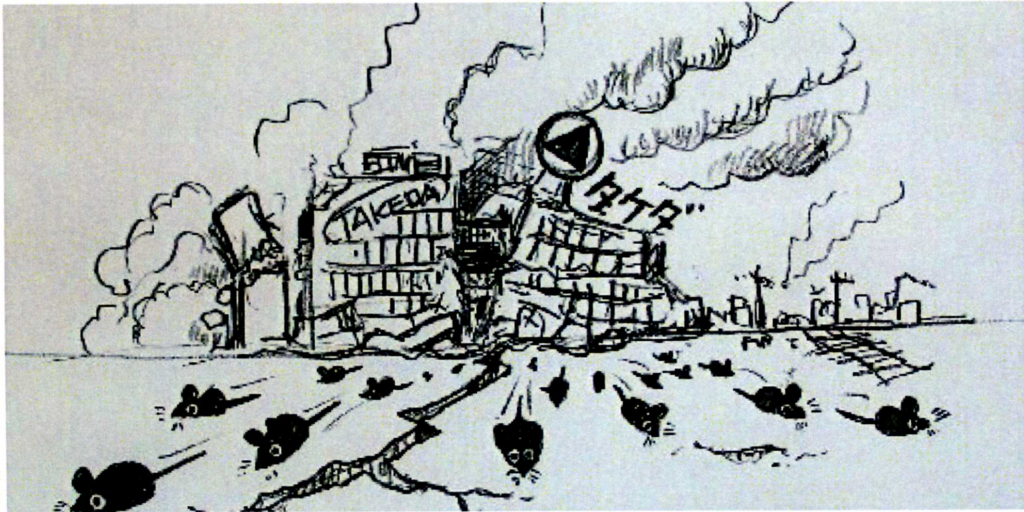


安全って、本当ですか？ 2011年11月16日
ニュース第15号

武田薬品湘南新研究所を問う！

(発行): 武田問題対策連絡会 <http://www.shounan.biz/090-6317-5547>(小林)

想定外の大地震！津波！液状化！発生
貸し実験室損壊！保菌ネズミ大脱走！！



このイラストはよしだともひこ氏のイメージによるものです

湘南の環境を一層危険にさらす、武田薬品研究所の レンタルラボ(貸し研究施設)化の操業に反対しよう

武田問題対策連絡会代表 小林麻須男

<日本経済新聞、武田薬品湘南研究所のレンタルラボ化を報道>

武田薬品の長谷川社長 チャップマン医薬本部長～新薬開発のオープン・イノベーション化、国際ハブ化を強調

9月26日の日本経済新聞は、この2月に操業を開始した武田薬品工業湘南研究所が、施設の一部を外部に開放し、研究所のレンタルラボ(貸研究施設)化を進めているとの記事を掲載しました。同紙によると、武田薬品は、その巨大な研究施設を「大学の研究者やベンチャー企業に貸与し、成果は共有したい、現在、内外のベンチャー企業と交渉している」というものです。

こうした報道と軌を一にして、10月3日横浜で開催されたバイオ・ジャパンでの講演では、武田薬品長谷川閑史社長が、新薬開発のオープン・イノベーション化の必要性を強調していました。さらに、10月1日の神奈川新聞紙上で、武田薬品医薬研究本部長に就任したポール・チャップマン氏は、湘南研究所をグローバルな新薬発見のハブ(拠点)にしたいとの意向を表明していました。

<住民説明と異なるレンタルラボ(貸し研究施設)化の危険性 >

これまで武田薬品は、住民に対し、大阪十三研究所と筑波研究所の二つの研究所を統合して効率の良い自社研究所を作ることが、湘南研究所建設の目的であると説明してきました。しかし、今回の発表は、自社研究所の統合ばかりで無く、外部の企業を呼び込むレンタルラボ化は、化学合成実験室はもとより生化学実験や動物実験の実験室も貸し出すものであり、国内、国外の研究者を強く引きつけるであろうが、研究所の危険性は一層増すものです。

→ 2ページへ続く

